

# ロープ～戦場の生命線～ 開催レポート

12月5日（日）に、イーグレひめじ3階あいめっせホールにて、国際理解映画上映会「ロープ～戦場の生命線～」を開催し、86名が参加しました。

この映画は、戦争の実態を1本のロープを題材に、ユーモアを交えて表現した作品で、カンヌ国際映画祭でも上映され、絶賛されました。



～ あらすじ ～

1995年停戦直後のバルカン半島。ある村で井戸に死体が投げ込まれ、生活用水が汚染される。国際援助活動家「国境なき水と衛生管理団」は、死体の引き揚げを試みるが、運悪くロープが切れてしまう。

ロープを求めてさまよう中、一人の少年との出会いがきっかけで、衝撃の真実と向き合うことになる…

上映に先立ち、舞台であるバルカン半島の位置やユーゴスラビア紛争について簡単に説明しました。

観客のみなさんからは、「ユーゴスラビア紛争について理解を深めることができた」「人の争いの中には必ず弱い人間の犠牲がある」「最後のオチが良かった」などの感想が寄せられました。

エンディングでは、Where have all the flowers gone?という世界的に有名な反戦歌が流れました。日本では「花はどこへいった」という曲名で1960年代に流行したので、懐かしく感じられた方もいらっしゃったようです。

次回の上映会もお楽しみに！

